

【事業名】育児も家事も仕事もできる男になる、「男の3Gプロジェクト」

【団体名】 男の3Gプロジェクト

【課題】

ワークライフバランスの実現や男性の家事・育児への参加、地域社会で活躍の場を見つけることの必要性は従来より指摘されておりますが、「何をどうしたらよいか分からない」という声が多く聞かれます。定年退職者の引きこもりも大きな課題として指摘されております。これらの問題は、新型コロナウイルス感染症やテレワークの普及によって深刻化しています。

【取組概要】

「家事も、育児も、地域社会での活躍も、できる男になろう」を合言葉に、育児や家事に関するスキル向上はもちろん、健康で安心して住めるまちづくりの担い手を増やすことを目的に、男性の地域社会への参画を促す企画を実施します。まずは男性が不慣れな家事と育児に関する企画に優先的に取り組むこととして、その中でも人間として必須な「食べる」ことに着目し、「男の料理教室」を主に展開します。また、本プロジェクトが目的とする地域社会の担い手を増やすためには住民同士の人間関係の醸成も不可欠です。男性の地域社会への参画を促すことを目的として、育児や家事の具体的なスキルを学ぶのみならず、地域社会における人間関係を醸成する場を作ります。

団体・事業のサイト

検索 ⇒ 『男の3Gプロジェクト』

URL ⇒ https://peraichi.com/landing_pages/view/3gproject

男の料理教室



ーパスタの基本、ペペロンチーノの作り方ー

「男の料理教室」では、家事・育児ができる男になろう！を合言葉に、家事や育児の具体的なスキルを学ぶ機会を提供しております。今回はパスタの基本であるペペロンチーノの作り方を学びます。参加者はご自宅のキッチンでシェフと同時並行で調理を進めます。完成した料理はランチにご家族とお召し上がりください。分からないことなどは何でもその場でシェフにお聞きいただくことが可能です。皆様のご参加をお待ちしております。

○日時：令和2年8月23日（日） 11時00分～12時00分

○場所：オンライン

（お申込みいただいた方に URL をお知らせします）

【主催・お問い合わせ】

男の料理教室（担当：黒須） Email:nqe25722@nifty.com

詳細、お申込はメールにて。

※男性の参加を促すために「男の」としてありますが女性も大歓迎です。

○料理教室の開催

- 8月23日 「ペペロンチーノスパゲティの作り方」@オンライン
- 9月13日 「トマトとニンニクのスパゲティの作り方」@オンライン
- 10月11日 「ペペロンチーノスパゲティの作り方」@下田地域ケアプラザ
- 11月15日 「BBQのコツ」@EBARA FARM
- 11月29日 「BBQのコツ」@EBARA FARM
- 12月13日 「BBQのコツ」@EBARA FARM
- 1月17日 「トマトソーススパゲティの作り方」@下田地域ケアプラザ
- 3月14日 「お弁当の作り方」@下田地域ケアプラザ

【事業の参加者・対象者の評価（声）】

- 「外出や外食が怖くなり自炊生活を行う中で料理のスキルを学ぶ貴重な機会だった」「感染症が怖く数か月ぶりに外出して人と話す機会になった」など、家事のスキル向上や地域社会の人間関係構築に対する前向きな評価を得ました。
- 新しい生活様式に対応するようにオンラインでの料理教室も試行したところ、シェフと同時並行で調理を進めることが出来ることに対して「分かりやすい」「アドバイスが適切」という声をいただいた。
- 申込からお支払までオンラインで行ったことが評価された。

【事業実施（主催）団体の評価】

外出自粛が求められる中で、料理のスキルを磨き、地域住民の交流の場という機能の重要性を改めて認識した。

料理教室の様子

オンライン版



Zoomを活用し、シェフのキッチンとオンライン中継を行い、参加者は自宅のキッチンから参加し、シェフと同時並行で料理を進めました。

シェフの味を味見することは物理的に不可能でしたが、手順については自分で調理を行うために分かりやすいということでした。

リアル版



(左) リアル版でも三密を回避するためにキッチンと会場をオンラインでつないで実施しました。シェフの手元がよく見え、実際の料理も見ることができました。



(上) 屋外での料理教室にも挑戦しました。

【今後の展望と課題】

- 料理教室についてはオンライン/リアルについてそれぞれのメリット/デメリットを把握することができました。コロナ禍においては社会情勢と開催方法を見極め参加者の安心安全を最優先に継続的に実施することが大切であると考えております。
- 地域社会の担い手を増やすために参加者同士の間関係の醸成も大切ですが、新型コロナウイルス感染症により交流もままならない状況です。コロナ禍で家に引きこもっている方も多くいらっしゃると思われるため、新しい生活様式のなかでの人と人とのつながりをどう作っていくかの模索が必要です。
- 講師やテーマの多様性の確保にも努めていきます。